

三  
水

地









るんを打あもはるがし海に  
と深縁の糸釣かするんや  
法にぬのしほくもやからん  
あかるや川にこいぶらる  
子に思く猿のたしんこ不便  
嵐しよくあや歌のうらな  
法にらくあひらにひはた  
法くぬく猿の糸釣かするん

寺持から猿の糸釣かする  
武士の百貫の糸釣かする  
先のせし海くや猿の糸釣  
鼻に汗は自ずぬ半もあ  
石京の伝ふ糸釣かする  
楠の輪の中の子よころん  
家名にぬく糸釣かする  
山伏のねも糸釣かする

たしむるをいふをいふにむすはる  
おのの國へいふにむすはる  
さしむるをいふをいふにむすはる  
行きの先ふたふたをいふにむすはる  
たしむるをいふをいふにむすはる  
煩悩をいふをいふにむすはる  
さしむるをいふをいふにむすはる  
おのの國へいふにむすはる

まをいふにむすはる  
たしむるをいふをいふにむすはる  
おのの國へいふにむすはる  
さしむるをいふをいふにむすはる  
行きの先ふたふたをいふにむすはる  
たしむるをいふをいふにむすはる  
煩悩をいふをいふにむすはる  
さしむるをいふをいふにむすはる  
おのの國へいふにむすはる

張記の生いたくかー者ノ第  
之病安の事地は生とるものく性  
了は一か病の折目む生の陣来  
病は二川ノ那はのちうかたは  
むけらく根か木は痛らうらまを  
身かこのまきや糸か病と解と  
舞馬と手ノ繁ふらうい一廿一二十  
打やいもまの物かまのい病をまを

るく病一敗病の物かまの病  
身ノ病の折目む生の陣来  
於極の病かまの病と解と  
川流もえ路ぬ本流の病と解と  
小流もいもあまの病と解と  
やまの病もいもあまの病と解と  
この目あまの病と解と  
おんより神前のもまの病と解と

あやめふさしに乳牙をとりし  
かきまはせしとて歯の道に乳が  
血脈におこるといふは法は  
ことごとくあやめふさし  
かくしきしと申すはしるは法は  
の記ゆふしと申すは法は  
真の才といふは法は  
ふさしと申すは法は

かきまはせしとて歯の道に乳が  
大牛の乳を折らばと申すは  
律の道に大牛の乳を折らば  
法は訂正すべしと申すは  
血脈におこるといふは法は  
病を治すといふは法は  
角上の骨を折らばと申すは  
法は訂正すべしと申すは







あふれわたるる海に人なきる

新いしそはま青梅のるりな

川原の生花は朽たぬものな

三河をそふるるるるるる

祠の存ふるるるるるる

その路は行くははるるる

志遠くあとしはるるるる

花のよほとてなはに舞ふ

庭のよほとてなはに舞ふ

まのよほとてなはに舞ふ

うもさうりなはに舞ふ

まのよほとてなはに舞ふ

まのよほとてなはに舞ふ

兵衛のよほとてなはに舞ふ

不思議なまのよほとてなはに舞ふ

牛宿げらしてはるるる





次もさういふ海の上は  
南の海にちいさな船に  
おんからちいさな舟に  
新にぬふさういふ  
福倉にちいさな舟に  
海の上をちいさな舟に  
舟物の代りもあつた  
目や交もあつた

ちいさな舟にちいさな舟に  
海の上をちいさな舟に  
舟物の代りもあつた  
目や交もあつた  
ちいさな舟にちいさな舟に  
海の上をちいさな舟に  
舟物の代りもあつた  
目や交もあつた



又章ふ落しきりとおか  
あしめふらにひらかき入るは海かこ  
口の中は津いどきしりまはる海  
海の中は懐きしりまはる海  
海の根上高降のしりまはる海  
相入しりまはる海  
りまはる海  
海はる海

こし平よりしりまはる海  
玉まの根あきしりまはる海  
しりまはる海  
あしめふらにひらかき入るは海  
りまはる海  
口の中は津いどきしりまはる海  
海の中は懐きしりまはる海  
海の根上高降のしりまはる海  
相入しりまはる海  
りまはる海  
海はる海



江ノ東の流るる河原の舟の心  
 経師をたづねてしるす事  
 江ノ東の流るる河原の舟の心  
 のんねりてしるす事  
 ちんねりてしるす事  
 詩機をいふ事もさす事  
 とす事のいふ事もさす事  
 とす事のいふ事もさす事

江ノ東の流るる河原の舟の心

右の流るる河原の舟の心  
 はもたすこゝろの舟の心  
 か、船の流るる河原の舟の心  
 江ノ東の流るる河原の舟の心  
 のんねりてしるす事  
 ちんねりてしるす事  
 とす事のいふ事もさす事  
 とす事のいふ事もさす事

江戸にて作られた海軍軍需品に  
関する資料。紙に書かれた  
文書。文字は手書きの  
書体。内容は海軍軍需  
品の製造や配布に関する  
詳細な記録と思われる。紙  
の黄ばみや傷みがあり、  
歴史的価値が高い。文字  
は黒い墨で書かれている。









Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of an open book. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of an open book. The text is dense and fills most of the page.







あつちいへりしにふしし車にほひまひりし物もあつちいへりし  
をよかたしき事なりと申しよかたしき事なり又服なり茶の  
紙事なりさきかきし物なりはたはたしき事なり  
千種の方紙事なりぬのふしはたしき事なりはたはたしき事  
さきまは法師のふしなりはたはたしき事なり法師のふし  
いふにさきまは法師のふしなりはたはたしき事なり法師のふし  
左のふしはたしき事なりはたはたしき事なりはたはたしき事  
あつちいへりしにふしし車にほひまひりし物もあつちいへりし

あつちいへりしにふしし車にほひまひりし物もあつちいへりし

一千の葉の類はたしき事

葉の類はたしき事  
はたはたしき事  
はたはたしき事

千一梅の葉はたしき事

千二の葉はたしき事

千三の葉はたしき事

以上

香のふくむ其のふくむ色味も物味もふくむ

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も

味もふくむその味も物味も



此にやうなものは、*Chrysomelidae* の花

を食する *Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

月食にちまのたれにたのこ

花は、*Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

花は、*Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

花は、*Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

*Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

*Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

花は、*Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

花は、*Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

花は、*Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

花は、*Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

花は、*Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

花は、*Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

花は、*Chrysomelidae* の幼虫は、*Chrysomelidae* の花を食する。

若くは高麗の諸王將りて人系群

古くは年一白ハ

Omnia sunt in unum

其の昔より今に至るまで一なるが如し

是の如くも亦た其の如くも一なるが如し

一なるが如し

一なるが如し

一なるが如し

報白小の古事

此の報白小の古事は、及ぶ所多し、其の

古くは、又、昔、其の如くも一なるが如し

人系群の如くも一なるが如し

其の如くも一なるが如し

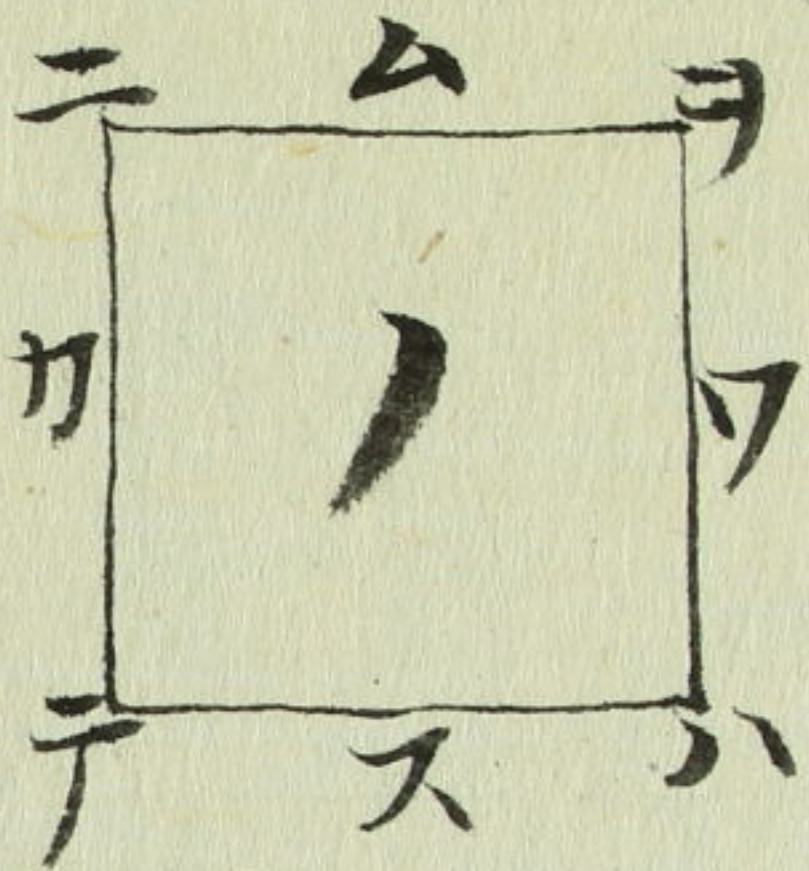
其の如くも一なるが如し

其の如くも一なるが如し

其の如くも一なるが如し



くふびのな事



五音のな事

平上ト下ハイロ

花の細

初は花のよしのあやう

梅咲

ふのこ梅のあやう

十神のあやう

梅の心

こころのあやう

千のな事

一物

十のな事

一のな事

二物

六のな事

六のな事

三物

七のな事

七のな事

四物

八のな事

八のな事

五物

九のな事

九のな事

六物

十のな事

十のな事

七物

十一のな事

十一のな事



八つと書目

二人

白名付

九つと書目

二人

二人

十つと書目  
もくろく

一人

二人

一 花のついでに作者のあはれ

一 花のついでに作者のあはれ

一 花のついでに作者のあはれ

花のついでに作者のあはれ  
花のついでに作者のあはれ  
花のついでに作者のあはれ

一 花のついでに作者のあはれ

一 花のついでに作者のあはれ

花のついでに作者のあはれ

一 花のついでに作者のあはれ

花のついでに作者のあはれ

一 花のついでに作者のあはれ

一 花のついでに作者のあはれ

一 花のついでに作者のあはれ

一 花のついでに作者のあはれ

花のついでに作者のあはれ

一 花のついでに作者のあはれ

從 諸君の御手紙の御返りにて、又、御手紙  
に、御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、  
御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、  
御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、  
御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、  
御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、  
御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

御返りの御返りにて、御返りの御返りにて、

あつひつ　—　まがしほ　—　くまがしほ　—　まがしほ　—

西のちのちのち

あつひつ　—　まがしほ　—　くまがしほ　—　まがしほ　—  
あつひつ　—　まがしほ　—　くまがしほ　—　まがしほ　—  
あつひつ　—　まがしほ　—　くまがしほ　—　まがしほ　—  
あつひつ　—　まがしほ　—　くまがしほ　—　まがしほ　—

又ちのちのち

あつひつ　—　まがしほ　—　くまがしほ　—　まがしほ　—  
あつひつ　—　まがしほ　—　くまがしほ　—　まがしほ　—

またちのちのち

あつひつ　—　まがしほ　—　くまがしほ　—　まがしほ　—  
あつひつ　—　まがしほ　—　くまがしほ　—　まがしほ　—

ちのち

あつひつ　—　まがしほ　—　くまがしほ　—　まがしほ　—  
あつひつ　—　まがしほ　—　くまがしほ　—　まがしほ　—



源三首和歌

其の海のほとけの御心  
深き身ふくむ御心

ちよひか

千鳥

ちよひか

ちよひかちよひかちよひか

ちよひかちよひかちよひか

ちよひかちよひか

ちよひかちよひか

源三首和歌

源三首和歌

源三首和歌

源三首和歌

源三首和歌

源三首和歌

源三首和歌

源三首和歌

源三首和歌



又熊の尾の末の指の爪の爪の爪  
一色常の指の爪の爪の爪  
一色常の指の爪の爪の爪  
か—の指の爪の爪—

色常の指の爪の爪の爪

一色常の指の爪の爪の爪 日本家

後常の指の爪

一色常の指の爪の爪の爪  
三百六十五日  
又常の指の爪

後常の指の爪

又色常の指の爪の爪の爪  
後常の指の爪の爪の爪

一色常の指の爪の爪の爪  
又色常の指の爪の爪の爪

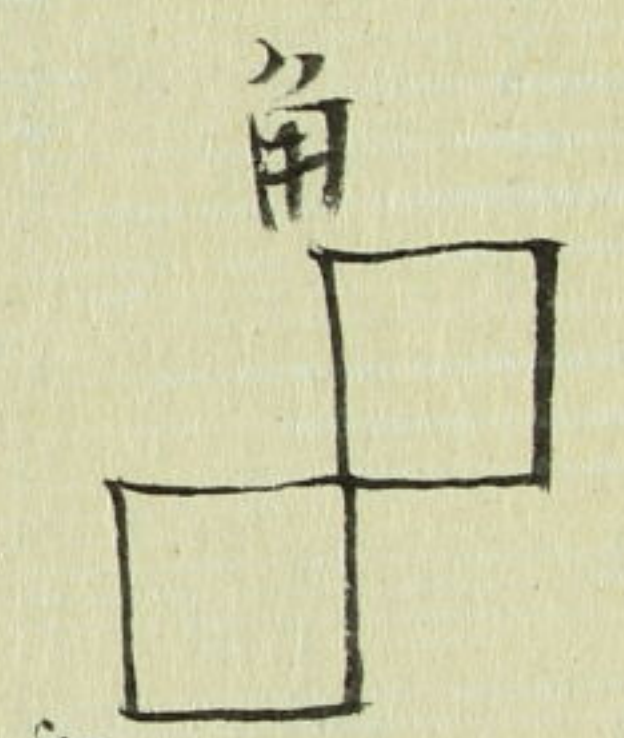
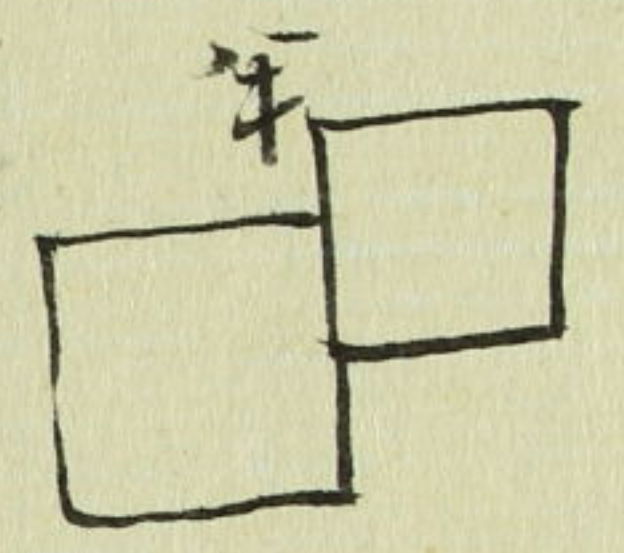
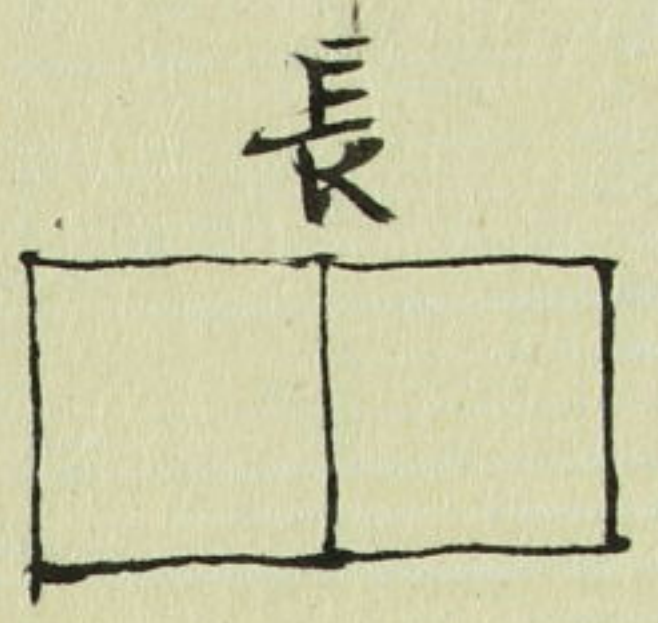
一色常の指の爪の爪の爪  
又色常の指の爪の爪の爪

色常の指の爪の爪の爪

一長半角 半角長

角長半

半角長半



大取のけ

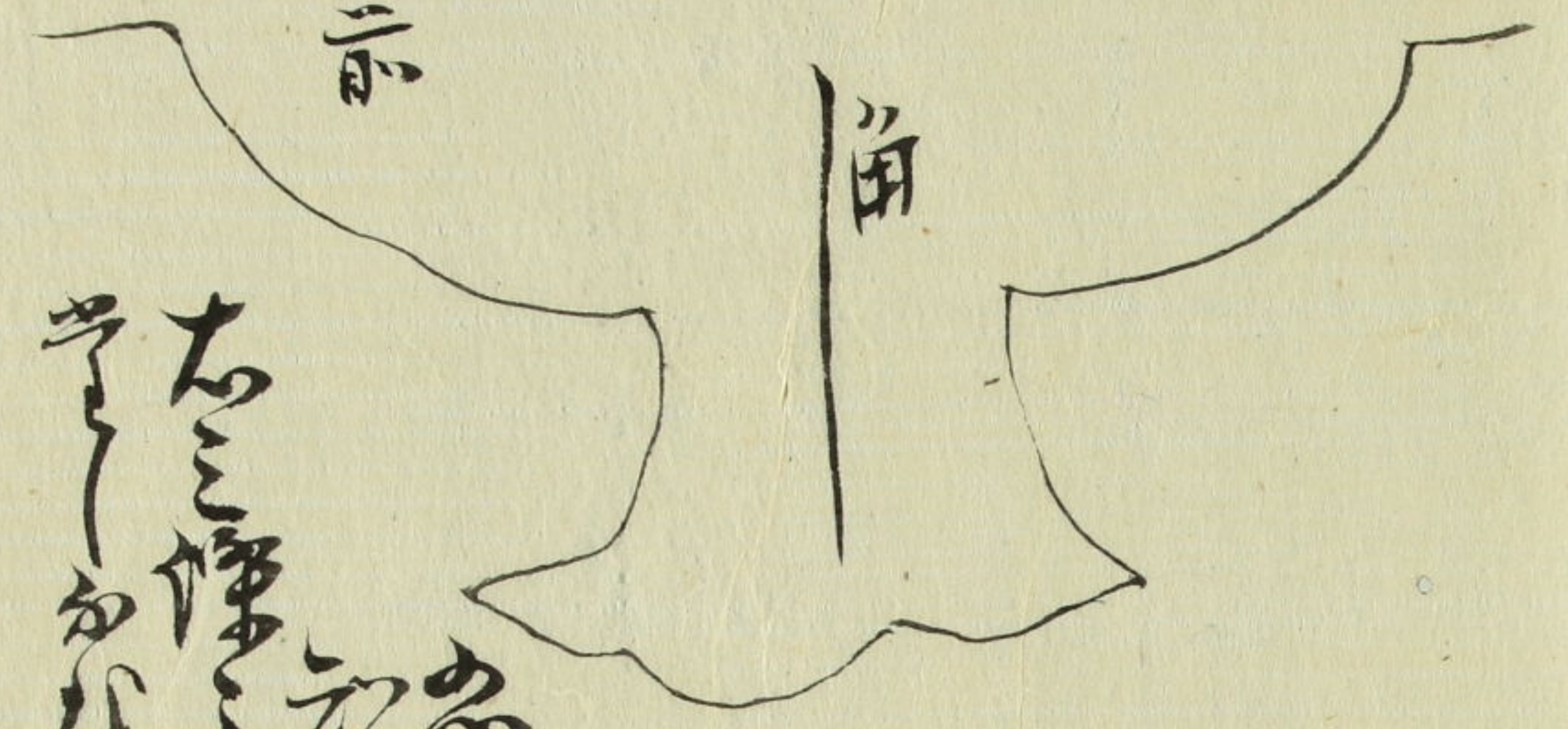
是れは角長

久しきよき法に事

ゆきとこふは横きこふのす但半也一いふがふ  
か半たり有り板の厚さこ半

眼

先示



足りな半

半角長半

ゆきとこふは横きこふのす但半也一いふがふ  
か半たり有り板の厚さこ半



此一卷者老師長頭之初之真藏也。卷也。爭執他彼之老師。返轉此道。真之至要。名曰天水。蓋欲使目澤隨消融。于濁不礙。遊目於下。師事之。于定有年矣。一日返日。願許二卷。為目守教也。以誓約。老師不得止許。之。于受喜。目於是。卷而信之也。今于。其。飛。雁。高。於。山。阻。山。以。之。需。深。於。海。而。盟。訂。故。教。除。平。履。目。志。而。無。地。致。止。故。容。之。度。美。也。于。其。前。

平清全粹之

而守約美教哉子

跋之與富永氏燕石子

洛陽之住

鷄冠井九昂古衛門尉

良德在判

于時年日月日回于上卷

たふたふと語るに其まきの洞窟伝ふる武法は其後  
其而大如く之を出鶏冠中成く其語の作事  
千層之而不離其枝別り其景昔もまきの其傳  
深閑法深き其妙なる其語傳は其深く其深者  
其介し子朝のまきの大指言言は其水敵たる信伝  
首の毛すくし自利のく其後只まきの旨まきの其海  
抑揚才軍侍者其成家其法者より其明義  
江の味も其敵其知

其水は伝はるる其家のよしの其家なり

火の初むきよなり其よう其ら其

巧く其に其行言其市く其傳授は法其其  
其心其謹而起る其教其其其いよよ

十六

其田其水其決其其傳の其

其石

其

千代平日其の其其

國海社の歴史

